

・5分前着席を心がけましょう

司式 熊田雄二牧師
奏楽 浅池慶子姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 12:1 聖なる、聖なる、聖なるかな

聖なる、聖なる、聖なるかな 三つにいまして一つなる

神の御名をば あさまだき おきいでてこそ ほめまつれ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 (詩編51編)

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。

わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 12:2 聖なる、聖なる、聖なるかな

聖なる、聖なる、聖なるかな み手のわざなるものみなは

三つにいまして一つなる 神の大御名ほめまつらん アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 4 5 年 末 の 祈 り

世界と歴史を支配しておられる、主なる神さま、栄光はすべてあなたのものです。今年も御国が

進展しんてんしたことを覚えておぼて、御名みを賛美さんびします。この一年いちねんも、わたしたちの信仰しんこうと生活せいかつを支えささぎ、祈りいのと奉仕ほうしと献げささげものを尊とうい御業みわざに用もちいてくださり、感謝かんしゃします。わたしたちの苦勞くろうは、決して無駄むだに終おわらないことを信しんじます。

天てんの父ちちなる神かみさま、あなたは、おびたしい証人しょうにんによって、わたしたちを取とり囲かこんでおられます。わたしたちも、愛あいする聖徒せいとたちと共にとも、信仰しんこうの創始者そうししやまた完成者かんせいしやである主しゅイエスを見つめながら、自分じぶんに定められた競争きやうそうを忍耐にんたいづよ強く走はしり抜ぬくことができますように。主しゅが栄光えいこうの内に再うちび来ふたたびられるとき、朽くちない冠かんむりをいただくことができますように。(Iコリント9・15、ヘブライ12)

献 金 (黒)教会活動 (赤)改革派神学研修所 70
今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書4章1～14節(新約聖書107頁)

説教・祈祷 「悪魔の誘惑とイエス」 熊田雄二牧師

- * 賛美歌 54 み神の言葉をかざして進まん
- 1 み神の言葉をかざして進まん さからう悪魔はてだてをつくし
いかにたたく せめおどすとも
 - 2 力のもとなる主共にませば 悪魔のたくみもなどはおそれん
勝ちはずねに 主のみ手にあり アーメン

- * 主の祈り 祈祷書1
- 天てんにまします我われらの父ちちよ
願ねがわくは御名みなをあがめさせたまえ
御国みくにを来きたらせたまえ 御心みこころの天てんになるごとく 地ちにもなさせたまえ
我われらの日用にちようの糧かてを 今日きようも与あたえたまえ
我われらに罪つみを犯おかす者ものを我われらが許ゆるすごとく 我われらの罪つみをも許ゆるしたまえ
我われらを試こころみに会あわせず 悪あくより救すくいだしたまえ
国くにと力ちからと栄さかえとは 限かぎりなく汝なんじのものなればなり アーメン。

- * 頌 栄 64 み恵みあふる
- み恵みあふるる父・御子・御霊の
一人の御神に 御栄え尽きざれ アーメン

- * 祝 禱
後 奏 (黙禱)
報 告 古澤純一長老 当番執事：若月・加藤(大日南隆夫・藤原)

I メシア任職後、悪魔の誘惑を受ける

1節「さて、イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。」主イエスは、ヨルダン川で洗礼者ヨハネから洗礼を受けましたが、それには二つの意味がありました。①「彼は罪人のひとりに数えられた」という預言の成就（イザヤ書53章12節 苦難のしもべ最終節）。②メシア（油注がれた者）の任職式＝救い主キリストになる意味で聖霊が注がれました。それゆえ、「イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった」のです。

「そして、荒れ野の中を“霊”によって引き回され」たのですが、この“霊”は悪霊でしょうか、聖霊でしょうか。マタイ福音書によると、「“霊”に導かれて荒れ野に行かれた」。マタイとルカ共通資料のマルコ福音書では、「“霊”はイエスを荒れ野に送り出した」とあるので、“霊”は聖霊です。これはメシアに対する神のテストです。しかし、そのテストは「悪魔の誘惑」なので、ルカは、少しドラマチックに「引き回され」たと表現しました。

II なぜメシアが悪魔の誘惑を受けるか

さて、イエスは、なぜ、「悪魔の誘惑」に「引き回され」なくてはならないのでしょうか。それは、アダムの墮落以来、全ての人が悪魔の誘惑を受けて墮落しているからです。人を救うために人となられたメシアは、人として悪魔の誘惑に勝利する必要がありました。勝利したら、メシアに連なる罪人も勝利者になる救いの道が始まります。それを知っているのです。悪魔は、「神の子なら」という誘い方をするので、イエスという人間性を無意味にするために、神の子の栄光を引き出そうとしました。

悪魔の誘惑の仕方は、アダムとエバへの誘惑の仕方と同じように、神の言葉を引用します。創世記3章1節「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか」。このような言い方をする悪魔の悪意は明らかです。実際に神が言われたのは、こうです。創世記2章16節「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」それに対して悪魔は言いました。創世記3章4節「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知る者となることを神はご存知なのだ。」

この誘惑で、悪魔とは何者かという正体が少し分かります。天使たちの中で墮落した者という解釈ですが、墮落した理由は「神のようになろうとしたこと」です。神の栄光を自分のものにしようという欲望です。神と対決して神になれなかった悪魔は、神のかたちである人間に攻撃の刃を向けました。それは巧みな攻撃で、人間を悪魔の仲間にするのです。善悪を知る者は神だけですから、善悪を知れば神になれると、誘惑しました。

人間は、神の言葉と悪魔の言葉に挟まれて、どちらに引き寄せられるかという状態に置かれました。そして悪魔の言葉に魅かれて墮落してしまいました。そこで人間となった主イエスの勝利は、神の言葉に信頼して従ったことによるのです。

ルカ4章3節。「そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」イエスは「『人はパンだけで生きるものではない。』と書いてある。」とお答えになった。

5節。「悪魔はイエスを高く引き上げ、一瞬の内に世界のすべての国々を見せた。「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。それは私に任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。だから、もし私を拝むなら、みんなあなたのものになる」。「イエスはお答えになった。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてあ

る。」

9節。3回目の誘惑。「そこで悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。というのは、こう書いてあるからだ。『神はあなたのために天使たちに命じて、あなたをしっかりと守らせる。また、『あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなただを支える。』」イエスは、『あなたの神である主を試してはならない』とされている」とお答えになった。

このように、人となられたメシアは、徹底的に神の言葉で勝利されました。神の御子なら自分自身の言葉で勝利することができるのですが、神の御子が人となった意味は、人の犯した過ちを取り戻すことでした。だから、アダムは悪魔の言葉になびいて失敗したのですが、イエスは神の言葉に従って、神の前に立つことのできる人間性を取り戻してくださったのです。

Ⅲ 救い主により守られている私たち

私たちは、どのような誘惑を受けやすいでしょうか。実に神の祝福である人間の基本的欲求が狙われるのです。食欲や性欲は、もともと神の祝福です。「すべての木から取って食べよ」、「生めよ増えよ」と神は言われましたから、祝福です。それを悪魔は、自分の言葉に引きずり込んで呪いに変えようとするのです。

また悪魔は、名誉欲や栄光への欲を狙ってきます。人間の名誉と栄光は、もともと「神のかたち」に備わっています。それによって「地を支配せよ」と命じられています。そのように創造されているので、人間の使命には、支配者としての光栄が伴っています。ただし、すべては「神のかたち」がすることですから、栄光は神にお返ししなければなりません。悪魔は、もともと神の祝福であるものを呪いに変えようとするので、悪魔の誘惑に会う時、負けると人間と人間によって治められる被造物に大変危険なダメージが待っています。

そして、神の御子がこの世に入り込んで来られた時、悪魔は、神からの最後最大の祝福を呪いに変えようするのですが、きょうの場面では、いったん退いて「時が来るまでイエスを離れた」とあります。このあと福音書には、けっこう悪魔や悪霊が登場するのですが、主イエスが十字架に向かって行く道を邪魔しようとし、十字架の道で勝利するなど、弟子たちはユメユメ思っていないでした。

悪魔は、イエスの正体が神の子であることを知っていますから、神の子が人になられた意味を台無しにしようと、「神の子ならパンを石に変える奇跡もできるだろう」、「神の子なら飛び降りてもだいじょうぶだろう」と誘惑してきます。そして、時が来た時、「神の子なら十字架から降りてみろ」と、人間を使って誘惑しました。

イエスは神の御子として悪魔の誘惑を受けたものではありません。人として誘惑を受け、人として誘惑に勝利してくださったのです。そして人間の弱さを知る憐れみ深い救い主となってくださいました。